

**第3期八戸市中心市街地活性化基本計画
令和2年度定期フォローアップ報告書に
対する意見書**

令和3年5月

八戸市中心市街地活性化協議会

意見書

当市中心市街地においては、八戸市や中心市街地関係者、八戸商工会議所、(株)まちづくり八戸等の連携による官民一体となった取り組みを進めている。

しかしながら、未だに収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症による外出控えや消費マインドの停滞による影響は非常に大きく、継続して開催してきた各種事業やイベント等も中止・縮小を余儀なくされた。

その結果、第3期基本計画に掲げている、中心市街地の「公共施設来館者数」も大幅に減少しており、「歩行者通行量」についても3カ年に亘って減少するなど厳しい様相を呈している。

一方で、参考指標に掲げる「誘致企業就業者数」や「中心市街地における人口の社会増減数」は堅調な動きをみせているなど、これまでの事業成果が窺える。そして、本年11月に予定している「八戸市美術館」の再オープン後は、新たな人の流れも期待され来街者の増加に関しても大きな期待が寄せられている。

今後は、国の提唱する「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりを念頭に、回遊性の向上や官民のオープンスペースの利活用等も踏まえ、商業機能の再生に向けた事業に一層取り組んでいくことが必要である。

以上のことから、八戸市におかれましては、引き続き目標指標の推移や現下の諸状況を調査・分析され、数値目標達成に向けて適切な対応策を講じるべきと思料する。

八戸市中心市街地活性化協議会

会長 河村 忠 夫